

実況中継「土曜講座」

第7号

2024年9月28日発行

市川学園 9月7日の土曜講座 於 國枝記念国際ホール

荒井 邦彦 先生

起業をしよう

株式会社 ストライク代表取締役社長（OB 高4 1回）



荒井 先生のご紹介

1970年千葉県生まれ。市川高等学校卒。

一橋大学商学部卒。公認会計士。

太田昭和監査法人（現 EY 新日本有限責任監査法人）に入社

5年ほど勤務してから起業、M&A 仲介業の株式会社

ストライクを設立し、東京証券取引所に2016年に上場する。

主な講義内容の紹介

2024年9月の土曜講座は、本学園出身で株式会社ストライク代表取締役社長の荒井邦彦先生より、『起業をしよう』という演題でご講演いただきました。先生はすでに小学校の卒業文集に将来の夢は『社長』と書いていたそうです。それを聞くと、起業がすごく難しいものになってしまうかもしれません。しかし、起業をするのに、きれい事や課題解決といった大きな目標は、必要がないと荒井先生は言います。先生は、多くの学生起業家に相談されることがあるそうですが、『社会課題を解決したい』という高い志しをもってのいるのに、『具体的に何をしたいのかわからない』という相談が多いそうです。これに対して先生は、大企業の例を3つ紹介されました。まずは、Facebook (Meta)。なんと創業のきっかけは振られた彼女に対する腹いせ。高い志しは皆無だが、好きなことを続けてきた結果なのです。先生は言います。『人から言われた事では、情熱は続かない。自分の好きなことをやればいい』。次に、任天堂。5代目社長は、会社が大きくなったのは『運』だという。経営不振となった任天堂は、手当たり次第に様々な事業に参入したが悉く失敗、しかし唯一うまくいったのが、ゲーム事業。たくさんの失敗をしたからこそ、大きな成功にたどり着けたということです。最後がカーネルサンダース。成功したときにはすでに60歳を過ぎていたそうです。時間はかかってしまいましたが、あきらめずに続けていたからこそ自分のやるべきことを見つけることができたのです。荒井先生の『自分のやりたいことやしてほしい』というメッセージが伝わるご講演でした。

受講レポートから

・起業することはとても大層なものだと感じていたけど、自分の興味や復讐の腹いせなど、単純な理由から大企業へと成長していった会社もあると聞いて少しだけ身近なものに感じられるようになった。今と将来で職業の種類が大幅に変化し、安定性がないような混迷の時代の中、自分の将来が全然想像できなくなっているからこそいろいろなことに挑戦したり、起業も良いと思った。起業の目的がお金という場合も少なくないが、地方創生など地域周辺に自分の力でよくしていくことができることに意義を感じた（中1）



・起業、私はその言葉を耳にしたときはいつもイメージが湧かずしっくりこなかった。しかし、今回の講座で「まずはお金だ。」おー、そうなるのか。私は今までそのようなことを述べる社長さんを知らない。欲は大切できれいごとだけでは説得力がない！会社を売るとお金が入る・・・！私はこの人すごい！そう感じた。己の欲を表しつつ、コントロールして世界の役に立っている。これ程よい事はあるのだろうか。社長なんて目指せるものではないと勝手に思っていたが己の欲、やりたいことから成長できるのだ。小さな運と1つ1つの失敗を経験し、自分の夢から相手に喜びを与える。それが起業だ。私は今回、起業、社長、会社が少し身近に感じられた。（中1）

・起業には立派な理由や目的が必要だと思っていたから、意外と簡単な理由でもいいとわかって少しハードルが下がった。でも、そこからの成長には同級生のこともそうだけど、信用がない中でそれまでの人づてを使ったりしていく必要があるということで、人間関係の大切さを知った。また、働いてもらう人が増える中でそれに伴った責任感が大きくなるんだと覚悟が必要だとわかった。（中2）



・「投資」という言葉は「資産を投げる」と書くが、自分の欲望のままに好き勝手やるよりも人から任されたことをやる方がお金が巡ってきたりするときに経営者の心持の重要性を感じた。「経営者は300人超えの社員の人生とその客の生活も握っているので、自分たちが事業をやる目的を常に持つことが大事」ということは、学生の自分が「将来の目標を持って日々勉強に励み自分に期待してくれる周りの大人たちに応える」と同じだと感じた。今、女子の理系進出が進む中で、自分の好きなことと得意なこ

とが不一致な気がして焦る自分があるが「60歳までやりたいことがわからなかった」人もいると励まされて、毎日の自分の感情に素直に生きていけばどうにかなると、流れに身を任せることも大事だと思った。（中3）

・私が特に印象に残ったのは、「失敗なしに成功はできない」という話です。今までの私の中での「成功」のイメージは地道に努力して得られるものというものであまり泥臭い印象はありませんでした。しかし、荒井先生のお話を聞き、「成功」というのは、たくさん行動をおこして、その中でたまたまうまくいったものをいっているものだという認識に変わりました。だから、よく言われる「失敗は成功のもと」という言葉の本当の意味は「失敗から学んで成功に近づく」ということではなく、「成功をするためにはそもそも失敗を起こさなければならない」というものなのではないかと考えました。努力すれば必ず報われるといったわけではなく、行動力と運も必要となってくるのが起業のおもしろさであり、難しさであるなと思いました。（高1）

・今までは起業など考えたこともなかった。しかし起業について聞くことで様々な新しい発見があった。特に社会貢献をするには自分がお金を持っていないといけないという話は印象的だった。話をされていないだけで、会社を興してから数え切れないほど辛いことがあったと思う。うまくいかないことがあってもめげずに続けることの大切さを改めて知った。また、人付き合いの大切さも改めて分かった。起業するにしてもしないにしても友人を大切にしていきたいと思った。（高2）



（文責：高倉 健 先生）